

文中に短歌や俳句を引用する場合、原文に行あけがなくても本文との間を行あけしたほうがよいのでしょうか？ 書き出し位置は下げたほうがよいのでしょうか？

【A】

句集や歌集では3マス目から書きますが、文中に引用されている場合は5マス目から書くことも多く、この場合も前後を行あけしたほうがよいと思います。3マス目から書き出す場合は、必ず前後の行あけが必要です。活字書では行あけがなくても短歌や俳句が挿入されていることが一見して分かりやすいのですが、点字では分かりにくいので、このような配慮が必要です。

短歌や俳句のマスあけについて、5・7・5・7・7 の区切り目はすべて一マスあけとなるのでしょうか。文中に文の終わりや解釈できる箇所(倒置法での表現と思える場合などですが)があっても2マスあけることはないかと理解すればいいのでしょうか。

詩の場合、1行中に文の終わりがある時(句点はない)は2マスあけていたのですが、短歌や俳句も同様の扱いと理解していました。短歌や俳句と詩の扱いは違うということでしょうか。短歌・俳句・川柳・冠句は短詩形ゆえに文の終わりや解釈できても2マスあける必要性がないと考えるのでしょうか。基本とする考え方をご教示ください。

【A】

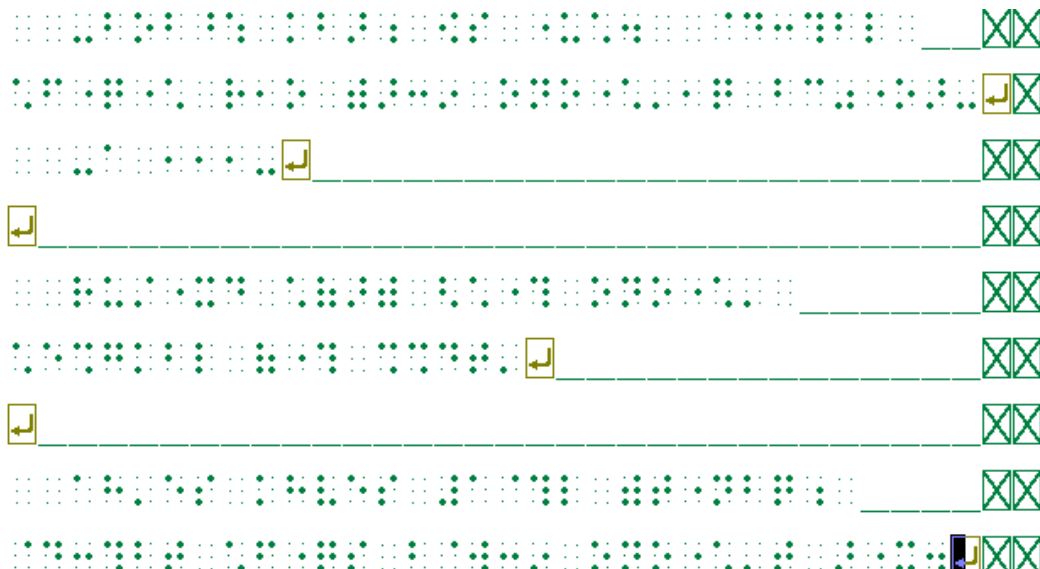
詩・短歌・俳句の書き方を示している第5章その3では、書き始めの位置や行替えについて提示しているだけです。マスあけについては、第3章、第5章の「その1」のルールに準じて書くこととなります。

その意味では、短歌や俳句だから、二マスあけは絶対はないとは言いきれません。

しかし、現在は、点字で読点を使用しなかった時代とは異なり、提示された主題の後ろ、倒置法の区切り目、感動や呼びかけを表す独立語の後ろなどでは二マスあけをしていませんので、俳句や短歌のなかで二マスあけを考えることはほとんどないと思います。「てびき」の例のなかでも例1、例2、例4、例5、例6などは、主題の提示や倒置法などと考えると二マスあけかどうか悩んでしまいます。

加えて、短歌や俳句はとくに韻律が重視されますので、二マスあけを入れることで流れが止まる感じになることを避ける意味合いもあるように思います。

破調の句や歌で明らかに二つの文からできている場合などを除き、俳句や短歌では基本的に一マスあけと考えてよいのではないのでしょうか。



「あ……」
 ちはやぶる神代もきかず龍田川 からくれなゐに水くくるとは
（在原業平の一首に基づいて、流水と楓の意匠を龍田川と呼ぶ。）
 縫箔屋の娘としても、百人一首の名歌としても覚えはある。ただ
 ばなかっただけだ。浮かばなかっただけだけれど、恥ずかしい。一
 女だと思われたかもしれない。
 ……（中略）…、羞恥の念の方が疼く。

『点訳フォーラム』より

21.p155 2.見出しの段階を示す文字や数字

見出しが<~>で囲まれて書かれています。見出しの<~>をはずして点訳するというような説明を見た記憶があります。原本に<~>を使って書かれているならば原本通り点訳してよいでしょうか。また、この時は第2カギでいいでしょうか。

1.<基本的な問い方>

•言葉の意味を明確にする

〇〇とは何か？

2.どんな疑問がありうるか、例を出しておこう。

<子供>

どうして好き嫌いしちゃダメなの？学校に行きたくない時～（以下略）

<中高生・大学生>

将来なにしたらいい？なんで働かなきゃいけないの？～（以下略）

<社会人>

どうして～（以下略）

1.は5マス目からの見出しです。また、2.はそれよりも小さい扱いになっています。

【A】

原文で、視覚的な強調の意味で見出しが囲み記号などで囲んであった場合、点訳では行頭のマスあけで見出しであることが分かるので、一般的に省略して書くことをお勧めしています。このQ&Aでも、見出しが【~】で囲まれている例を示しています。

ですから、1.は、<~>を省略して書いてよいと思います。

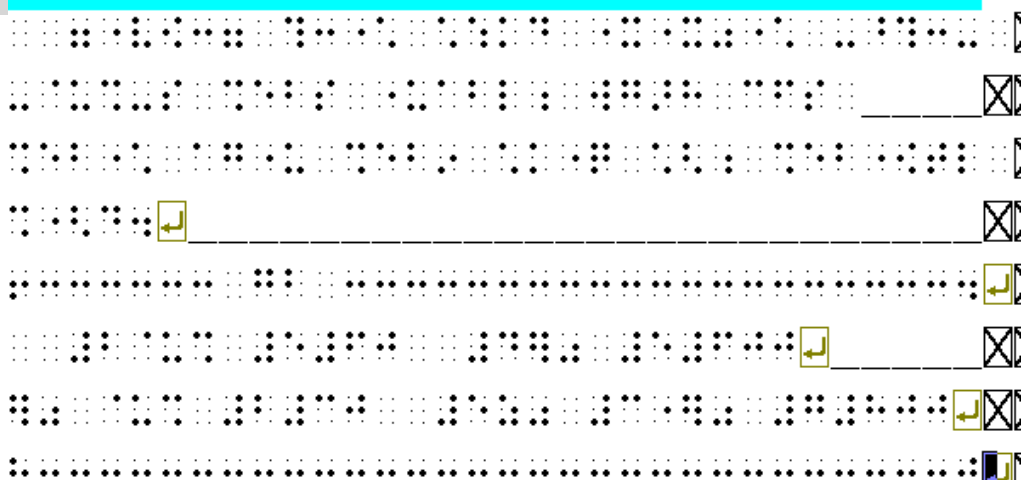
2.の例ですが、<~>で囲んであっても、すぐに、第2カギを用いるとは考えずに、5マス目からの見出しの下の見出しですので、第1小見出し符を用いることも考えられると思います。

第2カギを用いて間違いであると強くいうことはできませんが、小さい見出しにカギ類を用いることは、あまりしませんし、かといって、【備考】などとは性質が異なるので、この場合はカッコ類も適当ではないと思います。第1小見出し符がよいのではないかと考えます。

『点訳のてびき』より 【備考】 → 小さな見出しを囲むカッコの例になります。

備考 数が重なる部分が「十」「百」の位の場合に、それより上の位があれば位を仮名で書き、位ごとに区切る。

二百五、六十 [2 ヒャク 5 6 0]
四千五、六百 [4 セン 5 6 0 0]
千百二、三十 [セン ヒャク 2 3 0]
五万三千七、八百 [5 マン 3 ゼン 7 8 0 0]



.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

47.p158 5.書き流しの見出し

小見出し符の使い方についての質問です。

5マス目からの見出しの中に、番号がふってなくて、注意事項が箇条になっているところがあります。

短期断水の場合

節水で対応

節水しての洗面…

代用品での対応

紙皿、ウェットティッシュ、…

断水エリア外へ移動

「節水で対応」「代替品での対応」「断水エリア外へ移動」に小見出し符を使ったのですが、「断水エリアへ移動」は、小見出し符の後に何もないので、そのままいいのでしょうか。

【A】

小見出し符は、見出しに付けるものですから、小見出し符で終わりと言うことはありません。

この場合は、何か工夫しなければなりません。

例えば、小見出し符の後の文が、全て1文であったり、1段落の短い内容でしたら、小見出し符を使わないで、棒線を用いる方法もあります。

■■■■短期断水の場合

■■節水で対応 ■■■節水しての洗面…

■■代用品での対応 ■■■紙皿、ウェットティッシュ、…

■■断水エリア外へ移動

または、項目が少ない場合は項目に星印を付ける、または、項目が多い場合は、断わって番号を付けることも考えられます。そうすると最後の項目に小見出し符を付けなくても同格の項目であることが分かります。

■■■■短期断水の場合

■■■■節水で対応 ■■■節水しての洗面…

■■■■代用品での対応 ■■■紙皿、ウェットティッシュ、…

■■■■断水エリア外へ移動

または、

■■■■短期断水の場合

■■■■ゲブンニワ ■■■ナイガ ■■■バンゴロー ■■■フシタ ■■■

■■a. ■節水で対応 ■■■節水しての洗面…

■■b. ■代用品での対応 ■■■紙皿、ウェットティッシュ、…

■■c. ■断水エリア外へ移動

番号は、a.b.c. でもア.イ.ウ. でも構いません。